日本精神保健社会学会

THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY
＜日本学術会議協力学術研究団体 No.1001＞
TEL＆FAX 028－627－7188

平成 27 年 12 月 15 日
事務局：栃木県宇都宮市豊郷台１－１
帝京大学宇都宮キャンパス
滝澤武研究室内

ニュースレター第 56 号　　発行人：宗像恒次
編集人：上田敏子、窪田辰政

第 21 回日本精神保健社会学会学術大会を終えて

第 21 回学術大会実行委員長　山口豊（東京情報大学）

晩秋も過ぎ、初冬を迎えております。学会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。2015 年度は本学会の学術大会も第 21 回目を迎え、先日盛況のうちに大会が開かれました。大会テーマは、「見捨てる社会での共存を求めて」ということで、他の学会にはないユニークな視点を持ったテーマと自負しております。小さな学会ながら、社会にインパクトの与えるテーマを提言できたと考えています。大会は、午前中、僭越ながら大会実行委員長を命ぜられた私の開会の言葉で始まらせていただきました。記憶に新しい 11 月のフランステロ事件は、私たちがいかに共存することの難しい生き物であるかを、つまり見捨てる社会に生きていることを改めて想い起させました。その解決はどこに求めればいいのでしょう。外交や軍事力には限界がありそうです。「人間とは何かという」深遠な問いに絶えず向き合っていかざるをえないのではないでしょうか。

さて、今回の大会は、午前中 10 題の一般演題が発表されました。どれも、興味を引き付けられる内容ばかりでした。

以下、テーマを簡単に紹介します。和田ミトリ氏らの「<ひきこもり>支援の“転換期”における支援者の役割と課題に関する研究」、宮元預羽氏の「介護殺人における加害者特性の一検討（２）～加害者と被害者の性質をもとに」、山本美奈子氏らの「地方大学の学生のキャリア志向に影響を及ぼす要因の検討」、堀みさき氏らの「院内学級における教員による入院児の情動の評価に関する文献的検討」、窪田辰政氏らの「体育・スポーツ系学生への SAT 自己カウンセリングシートを用いた要約・発表能力育成の心理教育指導とその効果、－自己効力感回復を通じた新たな教育指導法の試み－」、上田敏子氏らの職場での情緒的嫌がらせ尺度の作成に関する研究」、殿山希氏の「がんサバイバーの心身に対する効果:半構造化自己開示法 VS マッサージ、(ランダム化比較試験)」、鈴木裕子氏らの「看護技術の効果的学習方法の検討 －行動科学に基づく対人援助方法－」、「大学における家族看護論授業実践の報告 －認識の難しさと学習方法の検討－」、筆者らの「大学生を対象とした自己カウンセリングシートによるストレスマネジメント効果について－問題解決の見通し改善を通して－」が発表されました。

午後は、今年のテーマである「見捨てる社会での共存を求めて」を題材に、宗像会長の司会のもと、3 名のシンポジストを迎え、発表を頂きました。服部万里子氏 （日本ケアマネジメント学会副理事長）、李貞淑氏、栗林知絵子氏 （豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長）の 3 人の方々を迎え、共存をキーワードに、高齢者の介護問題、外国人の差別問題、親とこどもの貧困問題に焦点を当て自らの体験を発表していただきました。

3 人の方々の発表には、それぞれの視点や立場から、若干の違いはあれ、人々が違いを乗り越えていく大切さを訴え、参加者フロアーの方々は、久しぶりに心を揺さぶられたのではなかったでしょうか。参加者の中には、目頭を押さえている方もいらっしゃいました。シンポジストと司会者が本音をストレートに語るその言葉が、参加者に

その情景を引き出したと思います。今年も大会が無事に終了し、理事をはじめ学会員や多くの方々に支えられて大会ができたことに心から感謝申し上げます。来年の大会がさらなる発展をしますように、会員の皆さま、どうぞ、今後ともご支援いただきますようお願いいたします。

シンポジウムの様子

新理事就任あいさつ

過日開催された第 21 回総会にて、新たに 2 名の先生方の理事就任が決定しました。

四條畷学園大学看護学部　准教授　谷口　清弥

先日、第 21 回日本精神保健社会学会学術大会に参加させていただきました。様々な分野の方々の研究報告、シンポジウムの実践報告、そして、学会後の懇親会まで参加させていただき感じたことは、参加者 1 人 1 人が活かされる学会だということです。人と人とのつながりの中で学びあう学会の良さを感じることができました。

一方、社会においては、メンタルヘルスの問題は依然深刻です。多くの人が自分らしく生きたい、人とのつながりや、心の豊かさを求めているにも関わらず、その指針を見出せず混沌としているのではないでしょうか？その手がかりを求めて宗像先生の下でカウンセリングを学び出したのはもう 20 年も前のことです。その後、教育研究職につき、人の回復力や成長心を引き出す援助を研究テーマとし、大学教育にも活かしています。労働者のストレスチェックが義務化されるなど、メンタルヘルス対策の充実・強化が推し進められる中、今後、本学会が果たすべき役割はますます重要なものになると思います。本学会活動に寄与できるよう、皆様と共に尽力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構　研究員

山本 美奈子

このたび、理事を承った山本美奈子です。私は、市役所で職員の健康管理の仕事に携わったことがきっかけで、働く人のメンタルヘルスとキャリア支援の研究に長く取組んできました。現在は、就職活動前の大学生のキャリア志向と心理社会的関連要因を明らかにし、具体的な支援策を行うための研究に取組んでいます。同時に仕事では、様々な障害を持ちながら働く人が仕事や生活の中で感じる共通の課題を明らかにし、必要な支援策へとつなぐための研究に携わっています。

本学会の会員となり 10 年以上になります。これまでの学術大会では、仕事や生活の中では接点の少ないアルコール依存、引きこもり、性同一性障害など幅広い分野のテーマが取り上げられ、支援する立場から現場での実践的取組み、当事者の視点から見た社会の状況や貴重な体験を聞かせていただきました。専門分野は異なりますが、発表を聞くことにより視野が広がる部分も多く、このような社会の状況や課題に対し、自分にできることは何かを考えさせられる内容の濃い学会です。発表後の質疑応答では、様々な立場の方が率直に意見交換を交わすことができ、黙って座っていても対話をしているような居場所を感じてきました。

今後も引続き、参加された方々が意義を感じていただける場、交流機会を深める場を会員の皆様と共につくっていきたいと存じます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol.22」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

●原稿締切：**2016 年 7 月 11 日（月）厳守**

●送付方法および送付先

＊郵送のみの受付となります。詳細は投稿規定をご確認ください。

〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台１－１　帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内 日本精神保健社会学会事務局

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきています。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見いだし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。

②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。

③国際的にも仲間づくりをすすめていく。

④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。

⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。

⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒320-8551　栃木県宇都宮市豊郷台1－1　帝京大学宇都宮キャンパス　滝澤武研究室内
日本精神保健社会学会事務局　　TEL. 028－627－7188　FAX. 028－627－7188

入会金：5,000円

会　費：通常会員5,000円、学生会員3,000円、賛助会員一口10,000円（一口以上）、機関会員 20,000円

送金先：郵便振替　００１７０－６－６１３０３６　　加入者名 日本精神保健社会学会

※　ＦＡＸ、または郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏　名		生年月日	西暦　　年　　月　　日　　歳 （　男　・　女　）
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員　を希望する	連絡先	所属先・自宅　を希望する
所属先名 及び住所	〒 TEL.　　FAX.		
自宅住所	〒 TEL.　　FAX.		
所 属 系 （○印で）	社会学･文化人類学･経済学･哲学･心理学･社会福祉学･教育学･看護学・医学･保健学･栄養学･ 体育学･地理学･行政学･政治学･その他(　　)		
関心領域			